



## 「安全・安心な学校」を言葉だけでなく行動で

年明け早々、大分・熊本での中学生による暴行動画の拡散という、極めてショッキングなニュースが報じられました。被害に遭われた生徒の心痛を思うと、言葉もありません。保護者の皆様も、大きな不安と憤りを感じられたこととお察しいたします。

このニュースを前に、私たち教職員は自問自答しました。「なぜ、学校に相談が届かなかったのか」、「予兆に気づくチャンスは本当になかったのか」、「校内での情報共有は機能していたのか」…。

これらは決して「他校のこと」ではありません。本校においても、同様の事態を絶対に防ぐべく、教職員全員で以下の対応を再確認し、徹底してまいります。

### 1 「小さなサイン」を見逃さない徹底した見守り

「健康観察」の徹底：毎朝の何気ないやり取りの中から、表情や態度の異変を「見落としぜロ」で察知します。

「心のアンケート」の深掘り：毎月実施しているアンケートの結果を複数の教員で確認し、文字にならないSOSを汲み取ります。



### 2 「いつでも、どこでも」助けを求められる体制へ

対面による相談に加え、新たな窓口を設置します。

デジタル窓口の開設：本校ホームページに「こころのつぶやきボタン」を設置し、時間や場所を問わず、子どもが心理的ハードルを下げてSOSを送れる環境を整えます。

### 3 「助けを求める技能」を育てる教育

子どもたちにも、そして私たち職員も、「助けを求めることは、生きていくために必要な誇るべき技能（ヘルプシーキング）である」という認識を新たにしました。

今後は、人権教育や情報リテラシー教育といった「予防的教育」をさらに強化します。



### 【保護者の皆様へのお願ひ】

ご家庭で、お子様の様子に少しでも「いつもと違う」と感じることがあれば、どんなに些細なことでも構いません。遠慮なく学校へお寄せください。

「学校と家庭の風通し」こそが、子どもたちを孤立から守る最大の防波堤になります。



## 「岩松の心」を次世代へ—第14回岩松検定—

1/21(水)、本校の恒例行事である「岩松検定」を実施しました。今年度からは対象を広げ、4年生から6年生までの「上学年」が挑戦しました。

この検定は、郷土の宝が詰まった冊子『岩松読本』(2013年改訂版)の内容をどれくらい身に付けているかを振り返る取り組みです。『岩松読本』は、第45代校長・井手義信氏を中心に編纂されました。かつて、地域の区長様やご住職様を講師に招いて開催されていた「岩松寺子屋」(主催：岩松青少健)の貴重な講話に加え、校内の記念碑の由来などがまとめられています。「地域の子どもたちの学習に役立ててほしい」という、当時の熱い思いが結実した一冊です。

全25問で行われた今年度の検定では、子どもたちが日頃の総合的な学習の時間で培った知識を存分に発揮してくれました。合格証をもらえる子どもは10名でした(未受験者が数名いるため、暫定です)。

**満点：2名 92点以上(高得点)：8名**

合格した子も、惜しくも届かなかった子も、この検定を通して「岩松の心」を再確認する貴重な機会となりました。ご家庭でもぜひ、検定の内容や地域の歴史について話題にしてみてください。



### 【ミニコラム】親子で挑戦！「岩松検定」例題にチャレンジ

今回出題された全25問の中から、2問をピックアップしました。ご家族でぜひ答えを考えてみてください。

#### 【問1】歴史のなぞ

円通寺は、かつて小城を治めていた殿様が力を入れ、千葉氏の菩提寺として栄えました。その時の殿様の名前は何でしょう？次のア～ウの中から1つ選び、記号を書きましょう。

ア 千葉 満胤(みつね) イ 千葉 宗胤(むねたね)  
ウ 千葉 胤友(たねとも)

#### 【問2】自然を守る活動

昭和46～47年頃、祇園川が汚れてしまい、ホタルがほとんどいなくなってしまいました。その後、ホタルを守るために140名で結成された団体の名前を何といいますか？